[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評 価 結 果 概 要 表

作成日 21 年 8 月 24 日

［評価実施概要］

事業所番号	1871700132
法人名	社会福祉法人 白女林
事業所名	グループホーム白楽荘 みくにの里
所在地	坂井市三国町梶49-18 (電話) 0776-82-2243

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成21年6月18日	評価確定日	平成21年8月24日

［情報提供票より］ (21 年 6 月 23 日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和 ・○平成 15 年 11 月 10 日						
ユニット数	2 ユニット		利用定員数計	18 人			
職員数	15 人	常勤	7 人、	非常勤	8 人、	常勤換算	12 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1 ～ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,610 円	その他の経費(月額)	12,660+実費 円
敷金	有 (円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円	昼食	円
	夕食 円	おやつ	円
	または1日当たり 930 円		

(4)利用者の概要

利用者数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3	要介護2	8		
要介護3	6	要介護4	1		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 86.6 歳	最低	81 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	白楽荘診療所・あわら病院・市立三国病院・宮崎病院・阿部歯科医院

［外部評価で確認されたこの事業所の特徴］

運営母体は、地域に認知症を抱えた多くの家族が困っている様子を見て何か地域に役立ちたいとの思いから、当事業所を平成15年11月に開所した。自然環境にも恵まれた場所に立地しており、同じ敷地内には介護老人福祉施設と診療所が併設されている。敷地内に入ると季節の花に囲まれた芝生にテ-ブルが置かれており、天気の良い日に戸外で食事をとったりおやつを食べたりと、自然と触れあうことができるようになっている。
事業所が住宅地から離れているため、地域の方や子供たちが気軽に立ち寄れる状況ではないが、地域の保育所で子供と交流したり、職員が老人クラブへ出向き、グループホームや認知症を理解してもらえるような活動をしながら地域との関わりを深めている。
重度化や終末期については家族の意向を聞き、事業所として対応できることを伝え、穏やかな最期を迎えられるよう職員・医師・家族が連携し支援している。

［重点項目への取組状況］

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の改善課題であった「自己評価に全職員で取り組む」ことについて、今回の自己評価で実践し、作成されている。また、「地域関係者の運営推進会議の参加」については、保育所長の参加を得たことで、入居者と子供達との交流ができている。この他、「食事や水分の摂取量の管理」については、水分量や食事量等がパソコンで管理されているなど、前回の外部評価結果の課題に対し、事業所として積極的に改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が自己評価の意義を理解し、お互いに評価項目に沿って日常のケアを振り返りながら取り組んだ。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議には、市議会議員・坂井地区介護保険広域連合担当者・地域包括支援センター職員・保育所長・区長・民生委員・家族会長に参加してもらい、年3回開催されている。内容は、主に事業所運営状況や行事等の報告が中心となっているが、今後2か月に1回定期的に開催され、事業所に関するさまざまな意見をもらい、さらなるサービスの向上に取り組まれることを期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	入居者ごとに担当職員を決め、入居者・家族への馴染みの関係づくりに努めている。また、面会時や家族会の時には、意見交換を兼ねたレクレーションを実施し、意見・要望・苦情等を出しやすいようにしている。家族から苦情があった時は、苦情委員会で協議し、迅速かつ適切な対応をするようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所が住宅地から離れていることもあり、地域の方や子供達が気軽に立ち寄れる環境にはないが、事業所から保育所に出向き子供たちと交流したり、職員が老人クラブへ出向きグループホームや認知症を理解してもらえるような活動をしながら地域との関わりを深めている。また、災害対策でも地域の消防団の支援を受け、防災訓練を実施している。

2．評　価　結　果　（詳細）

※ ■は、重点項目。

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容（すでに取り組んでいることも含む）
		Ⅰ 理念に基づく運営　**1 理念の共有**			
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営母体の共通理念「ご利用者の方々に安らぎと潤いのある生活を送れるように、ご家族に安心していただけるように生き生きとした生活を支え，心あわせて愛情をそそいだ心身のケアに努めます」および事業所独自の理念「地域の中で共に生き生き笑顔で暮らそう」を玄関等の目につきやすい場所に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に、運営母体の理念を職員全員で唱和しているが、事業所独自の理念は唱和していない。	○	法人の理念と併せて事業所独自の理念も唱和され、職員の中に意識づけられることを期待したい。
		2 地域との支えあい			
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流という点では立地的に難しいが、事業所から保育所に出向き子供達と交流したり、職員が老人クラブへ出向き認知症の理解をしてもらう為に寸劇を披露するなど地域とつながりをもつことに積極的に取り組んでいる。		
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価の意義を理解し、お互いに評価項目を確認しあいながら自己評価に取り組んでいる。また、外部評価結果については運営推進会議・家族会・職員会議等で報告し、課題について話し合うなど、改善に向けて積極的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年3回、市議会議員・地区介護保険広域連合担当者・地域包括支援センター職員・保育所長・区長・民生委員・家族会長に参加してもらい開催している。主に事業所の運営状況や行事等の報告を行っている。	○	2か月に1回、定期的に開催され、事業所に関するさまざまな意見をもらい、さらなるサービスの向上に取り組まれることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、特に身寄りの無い入居者の対応について協議するなど連携を図っている。		
		4 理念を実践するための体制			
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、毎月の請求書送付時に、広報紙「みくにの里だより」と入居者個人の日々の暮らしぶりや健康状態を書いた手紙を同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者への面会時や家族会の場で意見を出しやすいように家族と職員の意見交換の時間を設けたり、意見箱を設置したりしている。また、苦情があった時は苦情委員会で協議し、迅速かつ適切な対応をするようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が退職や異動する際は、職員同士が十分に引き継ぎを行うとともに、新しい担当者は着任前から、時々顔を出し徐々に馴染みの関係を築くように配慮している。		

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5　人材の育成と支援			
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営母体による職員研修が毎月1回行われている。また、外部研修にも対象となる職員を交替で参加させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に参加し、同業者との情報交換を行い、サービスの質の向上を目指している。		
		II　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には職員が自宅に出向き、本人と家族に概要を説明するほか、見学希望者には事業所を見学してもらっている。また、同敷地にある通所介護事業所から徐々に入居に移行することで、スムーズに入居できるような工夫をしている。		
		2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者がゆったりと過ごす時間の中でいろんな話しを聞き、本人のペースに合わせて共に学び支え合うよう努めている。入居者からふきの皮むきや煮物の作り方・味付け等、生活の知恵を学んでいる。		
		III　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　　**1　一人ひとりの把握**			
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントシートを活用し、家族から入居者一人ひとりの情報を得たり、職員が日々関わり中で気付いたことを記録し本人の希望や意向の把握に努めている。		
		2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員と家族のほか、必要に応じ本人も含めて話し合い、併設施設の医師・看護師・栄養士等の意見を踏まえた上で、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは3か月に1回行っている。また、朝礼時に申し送り等で出た課題から見直しが必要となった時には、医師・看護師・栄養士の意見を聞き、本人や家族の要望も取り入れながら、随時、見直しを行っている。		
		3　多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の事業所の夏祭りや敬老会等の行事へ参加したり、併設の事業所から医療面・栄養指導面等で支援してもらっている。 家族との外出時には、直接、現地で家族と待ち合わせるなどの支援も行っている。		

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、併設している診療所医師から療養管理指導を受けている。かかりつけ医師による受診や通院の同行は、基本的には家族にお願いしているが、必要に応じて職員も同行している。受診後、職員が受診報告書を作成し、職員･家族･診療所医師が共有できるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居後、早い段階で重度化や終末期に向けての家族の希望を聞き、対応可能な内容であればできるだけ家族の要望に応えるようにしている。 そのため、看護師も常勤配置している。		
		Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　**1　その人らしい暮らしの支援　(1)一人ひとりの尊重**			
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営母体の個人情報保護規程の遵守を徹底している。また、事業所には、「個々のペースにあわせた対応をしましょう。言葉使いに注意し、気づいたら注意し合える環境作り。職員同士の報連相。」という接遇目標を事業所内に掲げ、職員は入居者の誇りやプライバシーを損ねないようなケアを心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所として一日の基本的な流れはあるが、強制はしていない。天気の良い日には、弁当を持って外出するなどできる限り本人の要望に沿えるように努めている。		
		(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	キャベツの千切りや料理の盛り付け･後片付けなどを入居者と職員が一緒に行う機会をもっている。また、職員と入居者が同じテーブルを囲み、楽しく食事している様子がうかがえた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的に週3回午後に行っているが、それ以外の時間帯にも希望に応じ出来る限り対応している。入浴を拒む人に対しては、時間をあけ、再度声かけをするなどの工夫をしている。		
		(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、入居者ごとに生け花･習字･ペンキ塗り等、それぞれの得意分野を把握し、安全に配慮しながらお願いし、感謝の言葉をかけ、入居者に張り合いや喜びを感じてもらえるようにしている。事業所には入居者が書いた目標が貼られており、張り合いをもって暮らしている様子がうかがえた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や畑の野菜の収穫のほか、車を使って近隣の施設や買い出しなどの外出支援を行っている。		
		(4)安心と安全を支える支援			
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は掛けていないが、同敷地の門扉は、新しく入居された方が帰宅願望が強いため開放していない。	○	新しく入居された方の思いを把握し、事業所での生活を楽しめるように支援し、最終的には門扉も開放することを期待したい。

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年に2～3回実施し、改善すべき点はその都度改善している。また、職員が帰宅(17時)後に再び事業所へかけつけるまでの夜間訓練を併設施設や地区消防団の協力を得て行っている。		
		(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事摂取状況および水分摂取量の状況を記録し、パソコンに保存し職員が情報を共有している。		
		2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1)居心地のよい環境づくり			
29	81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共用空間に入居者の作品が飾られている。作品の飾りつけや配置は入居者と一緒に考えている。共用空間では、食事の準備や後片付けの音等が聞こえ、家庭的な雰囲気がある。また、ソファも配置されており、共用空間にいても自分の居場所が確保しやすく、穏やかに過ごされている様子がうかがえた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真や馴染みの家具等が持ち込まれている。居室を整理し過ぎないほうが落ち着く入居者に対してはそっと見守り、時期を見ては片付けを助言するなどして、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。		

グループホーム白楽荘みくにの里Ａユニット（認知症対応型共同生活介護事業所）

自　己　評　価　票

（黄色の枠）は、外部評価との共通項目。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅰ　理念に基づく運営　　1　理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社会福祉法人白女林の理念の他、グループホームみくにの里独自の理念として「地域の中、生き生き暮らす」を念頭に置き、職員一同取り組んでいる。又、玄関の見やすいところに掲示している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を朝のミーティング時に出勤職員全員が唱和して確認している。入所者主体に企画書を作成し取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の行事に参加したり、地域の方にホームに来て頂き、一緒におやつ作りや余興等をして頂き、お話し等して頂いている。	○	地区老人会の皆様との交流をもっと増やしていきたい。
	2　地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所を歩行で散歩し、あいさつする事で声をかけて頂けるようになって来てはいるが気軽に立ち寄って頂けるまでには至らない。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭礼や老人会の方達との交流を図っているが機会は少ない。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人全体ではあるが、地域の老人会に出向き、体操やロールプレイングやお話し等をさせて頂いている。		
	3　理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を家族会等で見て頂き、職員全体で話し合いをし可能な事から改善に努めているが大きな改善までには繋がっていない。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーを増やし来て頂くことで保育園園児との交流が増えたり、色々な意見を頂けるようになってきた。	○	継続していき、ますます交流を深めていきたい。

項目番号	項　　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	随時、相談等の対応をお願いしおており、頻度は少ないが相談に行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今回、成年後見制度を利用するご利用者の方が居られ、裁判所や司法書士の先生方とお会いし相談・話し合いをして活用した。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内の接遇委員会や拘束廃止委員会が主となり、勉強会を通じて学ぶ機会を持ち一人一人が周知徹底するよう努めている。		
	4　理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を基に説明を行っている。又、契約内容変更時には、一軒一軒訪問し十分な説明とご理解を頂いた。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書やホーム内に「苦情相談解決のしくみ」を掲示し、それに基づき実施している。法人内でも苦情相談委員会を設け運営している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月写真付きのホーム便り、個々の近況を書いた担当者からの手紙、居宅療養管理指導の状況表を請求書と一緒に送付している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会などの機会に聞き取りを行い利用者様の反映と同じく「苦情相談解決のしくみ」に基づき実施している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議時や職員の意見箱「心の音入れ」を設置し意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	○	職員全員が意見や提案を言いやすい環境をもっと工夫し、更に反映させて行きたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者様の状態変化時や行事等による勤務調整は随時行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や退職時には、ご利用者様への配慮を心がけている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
	5　人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修計画に基づき、毎月の勉強会や新人研修を実施している。外部研修に関しても該当する職員の参加をすすめている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新施設への見学や実習受け入れ等での情報交換はしているが、まだまだ不十分である。	○	グループホーム同士のネットワークを広げ、交流を図り質の向上に努めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内での親睦会や研修旅行の参加はあるが、環境作りに関しては難しい現状である。夜勤のストレスが大きかったことにより、夜勤体制の見直しをおこなった。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	外部研修の参加や資格習得を奨励している。	○	グループホーム内でも個々が課題や学びたい内容を持ち寄り勉強会をしていき向上心を図っていきたい。
	Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と直接お会いし、不安な事や要望など事前に聞いたり、居宅ケアマネージャーより情報収集している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学に来て頂き、ホーム内での他のご利用者様の様子を見て頂いたり、困っておられる事や不安な事、要望等お聞きし、具体的なケアの提案やホームの方針等お伝えして、少しでも安心して頂けるよう努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内入所判定会に参加し、申し込みの経緯や状況等を検討している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に今まで使用していた馴染みのものや家具等持って来て頂いたり、ご家族との連絡も取り合いながら本人様が馴染んでいけるよう努めている。	○	1人2人ではあるが、日中過ごして頂き、ご利用者様に馴染んで頂き、入所に繋げたい。
	2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑や調理、洗濯、掃除等をご利用者様と共にすることで、色々な助言を頂いたり外出や会話をすることで日常生活の知恵を学ばせて頂いている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会時等、家族の方も食事作りや後片付けを手伝って下さったり、作品作りを一緒に混じってされたりして下さっている。又、入浴時に面会に来て下さり、職員と共に入浴の介助（ご利用者様の家族のみ）をして下さったりしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族様に日ごろ話しを聞くことによって本人様とご家族様の関係の理解に努め負担を感じない程度にホームでの食事を共にする等の支援に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り家族の方に面会や外出、外泊の要請や行事等の参加をおお願いしている。又、ホームでも馴染みの方に手紙を書く等の支援や併設された施設、ディサービスセンターに行き、友人を訪ねたり、自宅訪問をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士の関係の把握に努め、声かけのタイミングを計り、会話が円滑に進むようそっと間に入る等している。又、仲間意識を持つことが出来るよう食事場所や配置等の工夫をしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同事業所のみではあるが、併設の施設に入所された方や病院に入院された方の面会等随時行っている。		
	Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　**１　一人ひとりの把握**			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントシートから入居者一人ひとりの情報を得たり、入居後の生活の中での症状や会話等から本人の希望や意向の把握に努めている。言える方に関しては、ご家族様に協力を依頼し、本人本位のケアに努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネージャー等関連職種からの聞き取りや日々の介護記録、各情報提供書、センター方式シート等を活用し、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録や個人ケース記録、ケアプラン実施記録をパソコン入力する事により、日勤帯、夜勤帯を通して日々の情報を共有する仕組みをつくっている。又、朝の申し送りの際、毎日、リスク等話しあいを行い申し送りノートに記入し出勤者全員がすぐに確認できるようにしている。		
	２　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン立案時には継続的に本人の状況について職員、家族間で話し合い、必要に応じて本人も含め担当者会議を開いたり、併設施設のＤｒ、看護師、ＰＴ、栄養士から助言を受けたりしている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	更新時や状況変化時には、必要に応じて診療所Dr、PT、看護師、栄養士の意見を聞き計画を変更している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケースの記録やケアプラン実施チェックをパソコン入力する事により、情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている		
	3　多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設事業所との各種行事参加交流（夏祭り、敬老会、ボランティア行事）や医療、リハビリ、栄養指導等の支援を調整している。		
	4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	三味線や歌、踊りのボランティア、日赤奉仕団、地区消防団、福祉協力校の慰問、保育園へ出向き交流を図ったりと協力を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設ディサービス等馴染みの関係が途絶えないよう随時交流を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状該当者がいない事もあり協同は実施できていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療所医師の月２回居宅療養管理指導を受けている。又、かかりつけ医での受診の際はご家族様と相談しながら対応している。受診後は受診報告書を作成し診療所医師、ご家族様、職員が共有できるようにしている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	個別に認知症専門医やその他専門医との情報交換を行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設診療所の看護師に随時支援を受けている。また夜間は看護師のオンコール体制にて支援を受けている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	随時面会などに情報交換、カンファレンス等を実施し連携を行っている。又、退院後、御利用者様が安心して過ごせるよう御本人様、ご家族様の意見をふまえ、病院関係者と情報交換や相談に努めている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際、御本人様や御家族様の意見を十分に確認している。対応時には御本人様、御家族様の意見にできるだけ添えるように法人内施設や診療所、関係医療機関と話し合いを持ちながらケアの統一を図っていく。入所判定会等の機会に協議し対応も行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	所定のアセスメント様式を用いてカンファレンスをしながらアセスメントし併設診療所Drとムンテラを実施し、看護師の支援を得ながらチームとして取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の情報について関係者と話し合い情報交換を行っている。又、御本人様や御家族様の意向を聞き、できるだけ添うことが出来るよう支援をしている。		
	Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　　**1　その人らしい暮らしの支援　(1)一人ひとりの尊重**			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人内の個人情報保護規定や接遇委員会に徹底を図っている。また個々に「接遇チェック表」にて実施状況の啓発チェックを行っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	命令口調や複雑な会話は避け、傾聴による自己決定権の尊重に心がけている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度日課に沿った生活支援を行っているが、強制することなく一人一人のペースを尊重している。希望に応じて外出等の支援も臨機応変に行っている。		
	(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えの際は、御自分で選べる方は職員が付き添い選んで頂いている。又、定期的に理容ボランティアの支援や家族および職員同伴にて馴染みの理・美容店の利用を行っている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	随時、食事の好みを聞き取ったり、又、残菜等をもとに調理の工夫を行ったり、御利用者と職員が食事の準備や後片付けを行っている。時には、おにぎりを一緒に作り弁当持参で外出したりしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒、喫煙に関しては現在希望されておられる方はいない為行っていない。嗜好品については、外出時や家族面会時に必要範囲内で楽しんでいる。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握することで、本人にあった声かけ、介助方法を検討している。又、プライバシーに配慮した対応を心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回日中ではあるが、一人一人に入浴順の希望やタイミングを確認しながら対応している。他、状態に応じシャワー浴を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握した上で日中の活動を促し、夜間は落ち着いた環境を提供し安眠できるよう心がけている。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の補助や掃除、洗濯等生活関連行為、又、男性利用者の方には補修等も出来る範囲で実施したり、生け花や前庭の畑、花の栽培など実施している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要最低限のお小遣いを所持しており、法人内の事務所にて管理している。ご自分で所持を希望される方に関しては持っていて頂き、確認を行っている。買い物の際には、必要な相談、援助をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩や車両を使用しての外出支援も行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間計画や地域の行事、季節行事等確認をしながら行っている。家族同行時、家族の方にお聞きし、時には現地での待ち合わせをするなどの工夫、支援を行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙等本人自ら行い、必要に応じ支援を実施している。電話も特に制限せず行っていただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に立ち寄って頂けるよう心がけている。面会簿も設置し家族間の面会状態も確認できるようにしている。面会時には一緒にお茶を飲みながらくつろいで頂いたり、職員とも気軽に話せるよう配慮している。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止の手引き」を全職員が所持しており、法人全体の身体拘束廃止マニュアルのもと身体拘束をしないように取り組んでおり、現在、身体拘束は行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、日中の玄関の施錠はしていない。外の門扉に関しては、日中、時間を決め開放し特に問題はなかったが、帰宅願望が強い新入所の方が入所してからは、門扉を開放出来ていない。	○	再度、時間を決めて開放して行きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	点呼表を作成し、定時ご利用者様の所在や様子の把握に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所を決めて管理している。ご利用者様が使用する「縫い針」や「ハサミ」等の注意が必要な物品については必要個数の確認や使用後の個数の確認・管理を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書やアクシデント報告書を基に検証を行い対応を協議したり、毎日の申し送りにて個々のリスク等について話し合いを行っている。法人内の「事故防止委員会」にて協議を行っており、定期的に研修の機会を設けている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内の「事故対応マニュアル」「急変時対応マニュアル」に即して対応している。研修会等で確認を随時行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	最低年に2～3回の防火訓練を実施し、改善箇所に関してはその都度改善している。又、併設施設や地区消防団の支援を受けなら、夜間想定の防火訓練も行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用契約時やご家族様を交えた担当者会議時にリスクに関しての説明を行っている。利用開始当初や状態変化時にも予測されるリスクの説明や報告・対応を相談させて頂いている。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定期的なバイタル測定、状態観察を行い一人一人の体調変化の早期発見に努めている。状態変化時には併設診療所に連絡を行い、指示や処置を受けている。必要にお応じて専門医に情報提供も受けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服用薬品名カード・採用薬品の副作用リストをファイルし、全職員がいつでも確認できるようにしている。		

項目番号	項　　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を作成し、それを基に日々のおやつや水分量の調整を行っている。又、個々にあった軽い運動等も援助しながら行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の状況に合わせ、食後の口腔洗浄、歯磨きを促し見守り介助させて頂いている。又、就寝前には義歯の洗浄も毎日行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	随時個々の嗜好調査や摂取量、体重変化の確認を行い、カンファレンスや申し送り時に対応している。メニューについては、併設施設の栄養士作成の献立を基に提供させて頂いている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止対策マニュアルを基に実施している。又、法人内「感染対策委員会」に参加し、対応している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルを基に実施している。調理用具等に関しては、チェック表を作成し、毎日、洗浄・消毒を行っている。日持ちしない食材に関しては、前日に持ってきて頂く等して頂いている。普段より、手洗い・うがいは徹底して行われている。		
	2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に畑を作ったり、季節の花を植えたりして、ご利用者様、ご家族様、面会者や併設施設のご利用者様・近隣の方にも楽しんで頂けるようにしている。		
81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が作成した作品を壁に貼ったり、花をホーム内に飾る等して生活感や季節感を演出している。音に関しては、電話、テレビ、ラジカセ等は心地よく聞こえる程度の音量に配慮し、電化製品の故障時の不快な音に関しては修理をするように心がけている。光に対しても配慮を心がけて		
82	○共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のコーナーやホールや廊下にソファーを置いたり、玄関先にはベンチを置き、個々の居場所を確保し気の合ったご利用者様が一緒に過ごせるよう配慮している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に制限することなく、馴染みの家具等を持ち込み使用して頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は窓の開閉と換気扇を状況に応じておこなっている。冷房時は温度設定をこまめに変えたり、暖房時には、濡れたタオル等を置くなどして湿度を保つようにしている。定時で確認している。		

項目番号	項　　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内外ともバリアフリーで居室もゆとりを持った作りになっている。主要部には休める場所や手すりを取り付け安全に配慮している。又、ホールの物品等についても、状態に合わせ場所を変えたりして対応している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所を分かりやすく明示したり、居室の入り口に住所・名前を付け理解して頂くようにしている。又、夜間は状況に合わせトイレの電気をつけておいたり、戸を開けておく等して分かりやすく対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	前庭にてお弁当を食べたり、花壇にお花や野菜をつくり、ご利用者様と実りの過程や収穫を楽しんだりしている。他、草むしりや洗濯物を干したりもしている。		

項目番号	項　　　目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
	V　サービスの成果に関する項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

状態変化時のカンファレンスや医療面が少しづつ充実してきている。運営推進会議を通じて、保育園との定期的な交流を持ったり、地区の行事に参加したりする等して地域との交流・参加に力をいれている。

グループホーム白楽荘みくにの里Ｂユニット（認知症対応型共同生活介護事業所）

自　己　評　価　票

□は、外部評価との共通項目。

項目番号	項　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
	Ⅰ　理念に基づく運営　1　理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社会福祉法人白女林の理念の他、グループホームみくにの里独自の理念として「地域の中、生き生き暮らす」を念頭に置き、職員一同取り組んでいる。又、玄関の見やすいところに掲示している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を朝のミーティング時に出勤職員全員が唱和して確認している。入所者主体に企画書を作成し取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の行事に参加したり、地域の方にホームに来て頂き、一緒におやつ作りや余興等をして頂き、お話し等して頂いている。	○	地区老人会の皆様との交流をもっと増やしていきたい。
	2　地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所を歩行で散歩し、あいさつする事で声をかけて頂けるようになって来てはいるが気軽に立ち寄って頂けるまでには至らない。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭礼や老人会の方達との交流を図っているが機会は少ない。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人全体ではあるが、地域の老人会に出向き、体操やロールプレイングやお話し等をさせて頂いている。		
	3　理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を家族会等で見て頂き、職員全体で話し合いをし可能な事から改善に努めているが大きな改善までには繋がっていない。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーを増やし来て頂くことで保育園園児との交流が増えたり、色々な意見を頂けるようになってきた。	○	継続していき、ますます交流を深めていきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	随時、相談等の対応をお願いしおており、頻度は少ないが相談に行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今回、成年後見制度を利用するご利用者の方が1階に居られ、しくみや手続き等、学ぶ機会をもうけた。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内の接遇委員会や拘束廃止委員会が主となり、勉強会を通じて学ぶ機会を持ち一人一人が周知徹底するよう努めている。		
	4　理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を基に説明を行っている。又、契約内容変更時には、一軒一軒訪問し十分な説明とご理解を頂いた。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書やホーム内に「苦情相談解決のしくみ」を掲示し、それに基づき実施している。法人内でも苦情相談委員会を設け運営している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月写真付きのホーム便り、個々の近況を書いた担当者からの手紙、居宅療養管理指導の状況表を請求書と一緒に送付している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会などの機会に聞き取りを行い利用者様の反映と同じく「苦情相談解決のしくみ」に基づき実施している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議時や職員の意見箱「心の音入れ」を設置し意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	○	職員全員が意見や提案を言いやすい環境をもっと工夫し、更に反映させて行きたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者様の状態変化時や行事等による勤務調整は随時行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や退職時には、ご利用者様への配慮を心がけている。		

項目番号	項　　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
	5　人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修計画に基づき、毎月の勉強会や新人研修を実施している。外部研修に関しても該当する職員の参加をすすめている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新施設への見学や実習受け入れ等での情報交換はしているが、まだまだ不十分である。	○	グループホーム同士のネットワークを広げ、交流を図り質の向上に努めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内での親睦会や研修旅行の参加はあるが、環境作りに関しては難しい現状である。夜勤のストレスが大きかったことにより、夜勤体制の見直しをおこなった。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	外部研修の参加や資格習得を奨励している。	○	グループホーム内でも個々が課題や学びたい内容を持ち寄り勉強会をしていき向上心を図っていきたい。
	Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と直接お会いし、不安な事や要望など事前に聞いたり、居宅ケアマネージャーより情報収集している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学に来て頂き、ホーム内での他のご利用者様の様子を見て頂いたり、困っておられる事や不安な事、要望等お聞きし、具体的なケアの提案やホームの方針等お伝えして、少しでも安心して頂けるよう努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内入所判定会に参加し、申し込みの経緯や状況等を検討している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に今まで使用していた馴染みのものや家具等持って来て頂いたり、ご家族との連絡も取り合いながら本人様が馴染んでいけるよう努めている。	○	1人2人ではあるが、日中過ごして頂き、ご利用者様に馴染んで頂き、入所に繋げたい。
	2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑や調理、洗濯、掃除等をご利用者様と共にすることで、色々な助言を頂いたり外出や会話をすることで日常生活の知恵を学ばせて頂いている。		

項目番号	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会時等、家族の方も食事作りや後片付けを手伝って下さったり、作品作りを一緒に混じってされたりして下さっている。又,毎週最低1回は迎えに来てご自宅にお連れして下さるご家族様もいらっしゃる。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族様に日ごろ話しを聞くことによって本人様とご家族様の関係の理解に努め、お忙しいご家族様が来ホームされた際は玄関先までご利用者様をお連れして面会して頂いている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り家族の方に面会や外出、外泊の要請や行事等の参加をお願いしている。又、ホームでも馴染みの方に手紙を書く等の支援や併設された施設、ディサービスセンターに行き、友人を訪ねたり、自宅訪問をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士の関係の把握に努め、声かけのタイミングを計り、会話が円滑に進むようそっと間に入る等している。又、仲間意識を持つことが出来るよう食事場所や配置等の工夫をしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同事業所のみではあるが、併設の施設に入所された方や病院に入院された方の面会等随時行っている。		
	Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	**1　一人ひとりの把握**		
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントシートから入居者一人ひとりの情報を得たり、入居後の生活の中での症状や会話等から本人の希望や意向の把握に努めている。言える方に関しては、ご家族様に協力を依頼し、本人本位のケアに努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネージャー等関連職種からの聞き取りや日々の介護記録、各情報提供書、センター方式シート等を活用し、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録や個人ケース記録、ケアプラン実施記録をパソコン入力する事により、日勤帯、夜勤帯を通して日々の情報を共有する仕組みをつくっている。又、朝の申し送りの際、毎日、リスク等話しあいを行い申し送りノートに記入し出勤者全員がすぐに確認できるようにしている。		
	2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン立案時には継続的に本人の状況について職員、家族間で話し合い、必要に応じて本人も含め担当者会議を開いたり、併設施設のDr、看護師、PT、栄養士から助言を受けたりしている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	更新時や状況変化時には、必要に応じて診療所Dr、PT、看護師、栄養士の意見を聞き計画を変更している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケースの記録やケアプラン実施チェックをパソコン入力する事により、情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている		
	3　多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設事業所との各種行事参加交流（夏祭り、敬老会、ボランティア行事）や医療、リハビリ、栄養指導等の支援を調整している。		
	4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	三味線や歌、踊りのボランティア、日赤奉仕団、地区消防団、福祉協力校の慰問、保育園へ出向き交流を図ったりと協力を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設ディサービス等馴染みの関係が途絶えないよう随時交流を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状該当者がいない事もあり協同は実施できていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療所医師の月2回居宅療養管理指導を受けている。又、かかりつけ医での受診の際はご家族様と相談しながら対応している。受診後は受診報告書を作成し診療所医師、ご家族様、職員が共有できるようにしている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	個別に認知症専門医やその他専門医との情報交換を行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設診療所の看護師に随時支援を受けている。また夜間は看護師のオンコール体制にて支援を受けている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	随時面会などに情報交換、カンファレンス等を実施し連携を行っている。又、退院後、御利用者様が安心して過ごせるよう御本人様、ご家族様の意見をふまえ、病院関係者と情報交換や相談に努めている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際、御本人様や御家族様の意見を十分に確認している。対応時には御本人様、御家族様の意見にできるだけ添えるように法人内施設や診療所、関係医療機関と話し合いを持ちながらケアの統一を図っていく。入所判定会等の機会に協議し対応も行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	所定のアセスメント様式を用いてカンファレンスをしながらアセスメントし併設診療所Drとムンテラを実施し、看護師の支援を得ながらチームとして取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の情報について関係者と話し合い情報交換を行っている。又、御本人様や御家族様の意向を聞き、できるだけ添うことが出来るよう支援をしている。		
	Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　　**1　その人らしい暮らしの支援　（1）一人ひとりの尊重**			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人内の個人情報保護規定や接遇委員会に徹底を図っている。また個々に「接遇チェック表」にて実施状況の啓発チェックを行っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	命令口調や複雑な会話は避け、傾聴による自己決定権の尊重に心がけている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度日課に沿った生活支援を行っているが、強制することなく一人一人のペースを尊重している。希望に応じて外出等の支援も臨機応変に行っている。		
	（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えの際は、御自分で選べる方は職員が付き添い選んで頂いている。又、定期的に理容ボランティアの支援や家族および職員同伴にて馴染みの理・美容店の利用を行っている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	随時、食事の好みを聞き取ったり、又、残菜等をもとに調理の工夫を行ったり、御利用者と職員が食事の準備や後片付けを行っている。時には、おにぎりを一緒に作り弁当持参で外出したりしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒、喫煙に関しては現在希望されておられる方はいない為行っていない。嗜好品については、外出時や家族面会時に必要範囲内で楽しんでいる。		

項目番号	項　　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握することで、本人にあった声かけ、介助方法を検討している。又、プライバシーに配慮した対応を心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回日中ではあるが、一人一人に入浴順の希望やタイミングを確認しながら対応している。他、状態に応じシャワー浴を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握した上で日中の活動を促し、夜間は落ち着いた環境を提供し安眠できるよう心がけている。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の補助や掃除、洗濯等生活関連行為、又、男性利用者の方には補修等も出来る範囲で実施したり、生け花や前庭の畑、花の栽培など実施している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要最低限のお小遣いを所持しており、法人内の事務所にて管理している。ご自分で所持を希望される方に関しては持っていて頂き、確認を行っている。買い物の際には、必要な相談、援助をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩や車両を使用しての外出支援も行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間計画や地域の行事、季節行事等確認をしながら行っている。家族同行時、家族の方にお聞きし、時には現地での待ち合わせをするなどの工夫、支援を行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙等本人自ら行い、必要に応じ支援を実施している。電話も特に制限せず行っていただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に立ち寄って頂けるよう心がけている。面会簿も設置し家族間の面会状態も確認できるようにしている。面会時には一緒にお茶を飲みながらくつろいで頂いたり、職員とも気軽に話せるよう配慮している。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止の手引き」を全職員が所持しており、法人全体の身体拘束廃止マニュアルのもと身体拘束をしないように取り組んでおり、現在、身体拘束は行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、日中の玄関の施錠はしていない。外の門扉に関しては、日中、時間を決め開放し特に問題はなかったが、帰宅願望が強い新入所の方が入所してからは、門扉を開放出来ていない。	○	再度、時間を決めて開放して行きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	点呼表を作成し、定時ご利用者様の所在や様子の把握に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所を決めて管理している。ご利用者様が使用する「縫い針」や「ハサミ」等の注意が必要な物品については必要個数の確認や使用後の個数の確認・管理を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書やアクシデント報告書を基に検証を行い対応を協議したり、毎日の申し送りにて個々のリスク等について話し合いを行っている。法人内の「事故防止委員会」にて協議を行っており、定期的に研修の機会を設けている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内の「事故対応マニュアル」「急変時対応マニュアル」に即して対応している。研修会等で確認を随時行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	最低年に2～3回の防火訓練を実施し、改善箇所に関してはその都度改善している。又、併設施設や地区消防団の支援を受けなら、夜間想定の防火訓練も行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用契約時やご家族様を交えた担当者会議時にリスクに関しての説明を行っている。利用開始当初や状態変化時にも予測されるリスクの説明や報告・対応を相談させて頂いている。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定期的なバイタル測定、状態観察を行い一人一人の体調変化の早期発見に努めている。状態変化時には併設診療所に連絡を行い、指示や処置を受けている。必要にお応じて専門医に情報提供も受けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服用薬品名カード・採用薬品の副作用リストをファイルし、全職員がいつでも確認できるようにしている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を作成し、それを基に日々のおやつや水分量の調整を行っている。又、個々にあった軽い運動等も援助しながら行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の状況に合わせ、食後の口腔洗浄、歯磨きを促し見守り介助させて頂いている。又、就寝前には義歯の洗浄も毎日行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	随時個々の嗜好調査や摂取量、体重変化の確認を行い、カンファレンスや申し送り時に対応している。メニューについては、併設施設の栄養士作成の献立を基に提供させて頂いている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止対策マニュアルを基に実施している。又、法人内「感染対策委員会」に参加し、対応している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルを基に実施している。調理用具等に関しては、チェック表を作成し、毎日、洗浄・消毒を行っている。日持ちしない食材に関しては、前日に持ってきて頂く等して頂いている。普段より、手洗い・うがいは徹底して行われている。		
	2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に畑を作ったり、季節の花を植えたりして、ご利用者様、ご家族様、面会者や併設施設のご利用者様・近隣の方にも楽しんで頂けるようにしている。		
81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が作成した作品を壁に貼ったり、花をホーム内に飾る等して生活感や季節感を演出している。音に関しては、電話、テレビ、ラジカセ等は心地よく聞こえる程度の音量に配慮し、電化製品の故障時の不快な音に関しては修理をするように心がけている。光に対しても配慮を心がけて		
82	○共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のコーナーやホールや廊下にソファーを置いたり、玄関先にはベンチを置き、個々の居場所を確保し気の合ったご利用者様が一緒に過ごせるよう配慮している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に制限することなく、馴染みの家具等を持ち込み使用して頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は窓の開閉と換気扇を状況に応じておこなっている。冷房時は温度設定をこまめに変えたり、暖房時には、濡れたタオル等を置くなどして湿度を保つようにしている。定時で確認している。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内外ともバリアフリーで居室もゆとりを持った作りになっている。主要部には休める場所や手すりを取り付け安全に配慮している。又、ホールの物品等についても、状態に合わせ場所を変えたりして対応している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所を分かりやすく明示したり、居室の入り口に住所・名前を付け理解して頂くようにしている。又、夜間は状況に合わせトイレの電気をつけておいたり、戸を開けておく等して分かりやすく対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	前庭にてお弁当を食べたり、花壇にお花や野菜をつくり、ご利用者様と実りの過程や収穫を楽しんだりしている。他、草むしりや洗濯物を干したりもしている。		

項目番号	項　　目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
	V　サービスの成果に関する項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

状態変化時のカンファレンスや医療面が少しづつ充実してきている。運営推進会議を通じて保育園との定期的な交流を持ったり、地区の行事に参加したりする等して地域との交流・参加に力を入れている。